地　理　歴　史

1　地理歴史科における授業改善等の成果と課題

現行の学習指導要領は、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って、教科の目標及び内容が再整理された。地理歴史科の指導に当たって、教師は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことや、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが求められている。

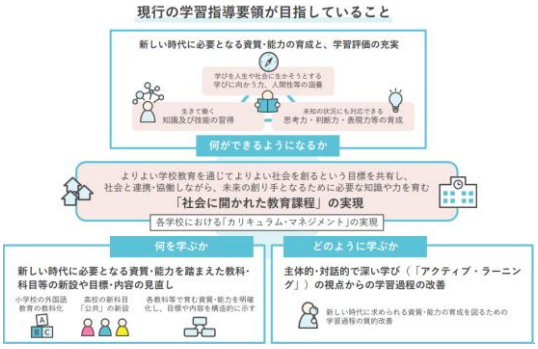


図１　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について
（令和６年 12 月 25 日中央教育審議会諮問）

また、生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、これまで創意工夫しながら取り組んできた授業実践に加え、学校における基盤的なツールとなる ICT を最大限に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

こうした状況を踏まえ、北海道教育委員会では、各教科等教育課程研究協議会や北海道高等学校教育課程研究協議会、指導主事等による学校訪問等を通して、次のような教育課程編成・実施上における成果や課題を把握した。

	成果	課題
全体	・各種研究協議会の発表等を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む学校が増加している。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、様々な実践に取り組む学校が増加している。 ・生徒が主体的に活動できるよう、心理的安全性に配慮した授業環境を提供する学校が増加している。 ・課題を追究したり、解決したりする活動の充実が図られている。	・自らの考えを持ちながら、根拠に照らし合わせて明確に説明することのできる生徒の育成に難しさがある。 ・習得した知識を、現実の事象と関連付けて理解し、概念としての知識の習得や深い意味を理解させることに課題がある。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、教員の認識に差があり、組織的な取組が進んでいない学校がある。 ・「生徒」を主語にした授業の在り方について、研修を深めていく必要がある。
地理歴史科	・授業等研究セミナー等において、教科等横断的な学びの視点に基づく協議を行ったことにより、各学校で教科等横断的な視点での授業改善の取組が進んできている。 ・教科等横断的な学習の推進や ICT の効果的な活用を通じて、生徒の探究活動をより一層充実させている学校が増加している。	・「探究的な学び」の充実を図るため、ICTの効果的な活用方法等に係る研修が必要である。 ・各科目の構造を理解し、単元を貫く「問い」を設定するなどした上で、単元の指導計画を構想する必要がある。 ・地理歴史科における「探究的な学び」と「総合的な探究の時間」との往還を図る必要がある。

2　学習指導及び学習評価の改善・充実

学習評価は、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導方法の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことを支援するために行うものであり、教育課程の編成・実施や学習・指導方法と一貫性を持たせることが重要である。

例えば、「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものであるが、この評価を行うために、教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定するなどした上で、指導や評価を行うことが求められる。

また、思考・判断・表現の過程には、

・物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

があると考えられる。地理歴史科においても社会的な見方・考え方を働かせ、探究的な学習活動の中で、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた授業改善の方法について研究を重ね、適切な方法を選択しながら、工夫して実施できるようにすることが重要である。

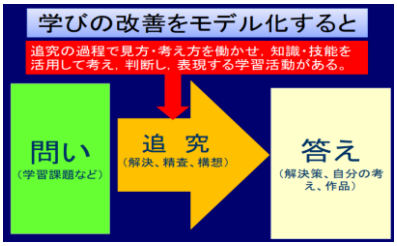


図２　新学習指導要領における思考力，判断力，表現力の評価について（平成 30 年７月９日中教審初等中等教育分科会教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ配付資料）

また、学習活動の充実を図るため、地理歴史科における学習評価の工夫としては、次のようなことが考えられる。

○　思考力等をバランスよく育むための工夫
・ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れて評価を行うことが大切である。
・ICT を活用し、多様な活動を集めたポートフォリオを作成するなどの工夫が大切である。

○　ワークシートの工夫
・生徒が学習課題の解決への見通しをもつとともに、各次あるいは各時の学習活動を振り返り記述することができるようにする。
・生徒が自らの思考の過程等を客観的に捉え、学習を自己調整しながら能動的に進めることができるようにする。

さらに、地理歴史科においては、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を充実させることが大切であることから、学習内容や配当時間のまとまりを見通した単元を貫く問いを設定し、

○　地理や歴史に関わる事象等の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、表現する。

などの学習活動を一層充実させることが必要である。

3　指導と評価の計画例

(1) 地理総合「B (2) 地球的課題と国際協力」の計画例

ア　単元の目標

・世界各地で見られる地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。

・世界各地で見られる地球的課題について、空間的相互依存作用や地域などに着目し、地理的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会の実現に向けて現状、要因、解決策などを多面的・多角的に考察し表現する。

・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界各地で見られる地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。	世界各地で見られる地球的課題について、空間的相互依存作用や地域などに着目し、地理的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会の実現に向けて現状・要因・解決策を多面的・多角的に考察し、表現している。	地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（10 時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 「おおむね満足できる」状況(B)
【単元を貫く問い】地球全体の課題の原因と持続可能な社会の構築に向けた解決策とは何だろうか。					
第１次 【１時間】	習得	■　単元の導入 地球的課題にはどのようなものがあり、どのように絡み合っているのかを、資料から読み取ったり、意見交換をしたりするなどして理解する。 ■　単元の見通し 単元の学習前に、単元を貫く「問い」への予想を立てる。 →その後の変容を観察する。 単元の途中で生徒が学びの自己調整をできるようにする。	知		・地球的課題にはどのようなものがあるのかを理解している。 ・地球的課題が相互に関連していることを理解している。
第２次 【６時間】 本時 4時間目	活用	【学習課題】地球的課題の原因を把握し、解決策を考える。 《自然に着目したアプローチ》 地球温暖化、熱帯林破壊、砂漠化 《社会・経済に着目したアプローチ》 先進国及び発展途上国の人口問題、都市・居住問題、資源、エネルギー問題	思	○	・それぞれの地球的課題について、地理的な見方・考え方を活用して課題の原因や解決策について考察している。
第３次 【３時間】	探究	■　テーマを設定し探究 持続可能な社会づくりという観点から、グループで現状と解決策を考察し、スライドを作成する。 テーマ例：エネルギー資源、食料生産など 身に付けた地理的な見方・考え方を働かせてグループで設定したテーマについて、協働的に探究する。	態	○	・地球全体の課題の原因と持続可能な社会の構築に向けた解決策について、主体的に探究している。

エ　学習指導案（５時間目／10 時間中）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10 分)	【本時の学習課題】なぜ先進国では人口問題が起こるのか。また、どのような解決策が考えられるのだろうか。 問い①先進国の人口は、どのように変化しているのだろうか。 ・様々なスケールでの人口の変化について考察する。 ・３つの人口ピラミッドの型を確認する。	・実際の人口ピラミッドを見て、どのような社会なのかを考えさせる。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に組み合わせ、学習の進み具合を自らコントロールするとともに、能動的に取り組むことに向けて自己調整できるようにする。
展開 (30 分)	・次の問い②・③について、自分で考えたことや、他者と協力して見付けたことをスプレッドシートに入力する。 問い②先進国では人口転換によって、どのような問題が起こっているのだろうか。 ・人口転換による少子高齢化や人口減少によって、どのような社会問題が起こることが考えられるか、予想する。 資料を Google サイトや Google クラスルームも活用して提示することも考えられる。 問い③先進国の人口問題を解決するには、どうしたらよいのだろうか。 link① ・諸資料を参考に、先進国の人口問題の解決策を考える。	・生徒が自分で学習方法を選択できるよう、どのような学習方法が考えられるかを想定し、広く必要となる資料等をあらかじめプリントに記しておく。 ・少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、年金制度、医療福祉制度などについて、「公共」の学習内容と関連付けることで、どのように変化していくのか考察し、思考の深化を図る。 説明できるよう促す。
まとめ (10 分)	・本時の学習課題について振り返り、Google フォームで回答する。	・ポートフォリオにも記録させ、生徒の考えの変容を把握する。

オ　学習指導の進め方や学習評価の在り方

(ｱ) 主体性を育む学習指導

本計画例では、教師が、生徒自らが「学び方」を学ぶことができるよう、問いの提示の仕方や、資料の掲載の工夫について示している。教師は、生徒が「学び方」を選択する際、迷うことのないよう、どのような学習方法が考えられるのかをあらかじめ提示し、その「学び方」が生徒自身にとって適切なものであったかを生徒自身に振り返らせ、次の学習活動に生かすことが大切である。

(ｲ) ICT を活用した学習評価の工夫

授業で学んだことを、デジタル化したポートフォリオに記録することは、生徒の振り返り、及び教師の適切な学習評価に効果的である。また、授業の振り返りにおいては Google フォームを用いるなど、ICT を効果的に活用することで、適切かつ効率的な学習評価が可能となる。

(2) 地理探究「B (2) 現代世界の諸地域」（東アジア）の計画例

ア　単元の目標

・東アジア諸国に見られる地形、気候などの自然環境や経済、社会体制、歴史、文化などの社会環境などを地誌的に考察し、まとめる技能を身に付ける。

・東アジア諸国について、空間的相互依存作用や地域といった地理的な見方・考え方を働かせて地域的な特色や課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。

・東アジア諸国の地誌的項目について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
東アジア諸国に見られる地形、気候などの自然環境や経済、社会体制、歴史、文化などの社会環境などを地誌的に考察し、まとめる技能を身に付けている。	東アジア諸国について、空間的相互依存作用や地域といった地理的な見方・考え方を働かせて地域的な特色や課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。	東アジア諸国の地誌的項目について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（５時間）

次【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考（「おおむね満足できる」状況(B)）
【単元を貫く問い】東アジアはどのような特色を持つ地域なのだろうか。					
第１次【１時間】 本時	習得	【問い】なぜ中国の人口や経済は、東側の沿岸部に集中しているのだろうか。 ・本時の問いについて、答えの根拠となる情報を諸資料から読み取る。 ・ホワイトボードアプリを用いて、グループで情報を共有し、問いについて考察し、まとめる。	思	○	・諸資料から読み取った結果を基に、自分の考えを表現している。
第２次【３時間】	活用	・中国の地誌的項目から、中国の地域的特色についてまとめる。 《地誌的項目》 自然環境（地形・気候） 農業と食文化 社会環境と工業　等	思		・中国の地域的特色や課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。
第３次【１時間】	探究	【問い】なぜ韓国は急速に経済成長をしたのだろうか。また、その影響は何かあるのだろうか。 ・身に付けた地誌的視点を応用して、本時の問いについて考察する。	態	○	・韓国の地誌的項目について、主体的に諸資料を考察し、追究している。

第２次で身に付けた地理的な見方・考え方を働かせて探究できるようにする。

エ　学習指導案（１時間目／５時間中）　授業プリント　link②

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 （５分）	・中国の夜間の衛星写真を見て、気付くことについて生徒同士で確認する。（光量が家屋や企業が多い東側の沿岸部に集中していること、都市部には光量が多いこと、南と北ではあまり光量の差はないことなどを確認する。）	・衛星写真等の資料を提示し、一目で概観できるよう工夫する。
展開 （35 分）	【本時の学習課題】なぜ中国の夜の明るさは、東側の沿岸部に集中しているのだろうか。それは人口や経済と関係があるのだろうか。 link③ ・３つの資料（自然環境と農業、経済と産業、国家プロジェクト）ごとのグループに分かれ、それぞれの資料の問いについて考える。 生徒同士が、対話などを通して協働的に学ぶことにより、資料の解釈が多面的・多角的になり、理解を深めることができる。 ・資料から読み解いた情報を、ホワイトボードアプリを用いて記述し、グループ内で共有する。 資料については、Google サイトや Google クラスルームを使用して提示する。	・対話的な活動となるよう、資料の問い方を工夫する。例えば、各テーマに設定する問いや、そのテーマの中の資料に設定する問いを構造化し、本時の学習課題につながるよう工夫にする。 ・資料から読み解いた情報を、他者に正しく伝えることができるよう、表現等に留意させる。
まとめ （10 分）	・本時の学習課題について、グループ内の３つの資料に関する情報を踏まえた答えを Google フォームで回答する。	・３つの資料を組み合わせた回答となるよう生徒の思考を促す。

オ　学習指導の進め方や学習評価の在り方

(ｱ) 対話的な学びの進め方

地誌の分野では、項目ごとに整理して考察する学習に陥りやすいことから、本単元では、問いについて、自分はどう考えるかを確認し、他者との意見共有を踏まえるとともに、問いに対する答えのヒントになる視点を付け加え、一人一人が納得できる答えを表現する活動を行うことができるようにしている。また、経済や人口を中心とした問いを設定し、考察することによって、学ぶことができるよう工夫している。

(ｲ) ICT を活用した学習指導の進め方の工夫

例えば、ICT の活用により、諸地域の状況等をカラー映像等により、リアルタイムで確認することは、生徒の学びに対する興味・関心を高めるとともに、地理探究の授業においては極めて有効な教材となることから、ICT を積極的かつ効果的に活用していくことが大切である。また、ホワイトボードアプリを用いて、資料から読み取った情報をグループで共有するとともに、共有した情報に基づいて話し合った内容を書き込み、更に内容を深めるなど協働的な学びの充実につなげることができる。

(3) 歴史総合「C (3) 経済危機と第二次世界大戦」の計画例

ア　単元の目標

・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制などを基に、 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。

・日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。

・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（８時間）

link④（年間を通した授業の「問い」）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 （「おおむね満足できる」状況(B)）
【単元を貫く問い】なぜ人々は戦争に参加していったのだろうか。					
第１次 【３時間】	習得	なぜ第二次世界大戦が勃発したのかということについて、世界恐慌の影響や国際関係の変化から理解を深める。	知		・世界恐慌の影響や国際関係の変化を基に、第二次世界大戦が勃発した背景を理解している。
第２次 【２時間】 本時	活用	なぜ人々は戦争に参加することになったのか、樺太の少数民族に注目し、戦争の影響を考察し、表現する。	思	○	・樺太の少数民族の事例を基に、人々が戦争に参加した理由を、国家や社会との関係から考察し、表現している。
第３次 【３時間】	探究	第二次世界大戦後の国際関係や冷戦の始まりについて、各国の動向を踏まえるとともに、日本と各国の関係性について気付いたことをワークシートに記入することなどを通して考察する。	態	○	・第二次世界大戦後の国際秩序や冷戦が始まった過程と、日本を含む各国の動向等を関連付け、追究している。

エ　学習指導案(ｱ)　４・５時間目／８時間中　link⑤（授業のプリント・スライド）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 （５分）	・スライド（石碑の資料）を用いて、石碑に記載されていることや慰霊の様子から「過去にどのようなことがあったのか」について予測し、意見交流する。	・戦争があったことや戦争に関わった人などについて生徒の考えを引き出す。
展開① (45 分)	【本時の学習課題】なぜ樺太に住む少数民族は戦争と関わることになったのか。 問い①いつ、どのようにして開戦したのだろうか。 問い②日本は何を求めて戦争に突入したのだろうか。 問い③戦争はどこで行われたのだろうか。 問い④戦争には誰が関わることになったのだろうか。 ・日本と諸外国の関係性などを踏まえ、日本がなぜ戦争に突入するのか考察する。 ・戦争がどこで行われ、誰がどのように戦争に関わっていたのかを考察し、表現する。	・スプレッドシートを活用し、日本が多くの国との対立を深めたことや戦争には日本人以外の人々が関わっていることなどを、気付いたことを記入させ、思考の変容を見取る。
展開② (40 分)	問い⑤樺太がどこにあり、どのような場所だったのだろうか。 問い⑥樺太の少数民族は、どう戦争と関わっていったのだろうか。 ・資料などから樺太の少数民族が、どのように戦争と関わったのかを考察する。 ・ゲンダーヌのアイデンティティの変容について考察し、表現する。	・皇民化政策（同化政策）が行われたことや同化政策に対する人々の意識が多様であることに気付かせる。
まとめ (10 分)	・個人のアイデンティティと民族の包摂・排除の問題について、「私」を主語として考察し、文章にまとめる。また、他者と意見共有し、多面的・多角的に捉える。 ・少数民族である「私」が、より幸せに生きていくことができる社会とはどのようなものかということについて考察し、表現する。	・「私たち」が状況によって変わる概念であり、民族に関わる事柄が他人事ではないことや、他人事と考えること自体が排除につながることに気付かせる。

スプレッドシートを活用し、生徒の思考の変化を読み取る。

オ　学習指導の進め方や学習評価の在り方

(ｱ) 科目の意義を踏まえた学習指導

歴史総合は、社会の形成者となる生徒が、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を主体的に考察する科目であることを踏まえ、自分たちの住む地域や北海道に関わる身近な題材を選定するとともに、生徒がその題材に関する課題等を「自分事」として考えることのできる授業づくりに取り組むことが大切である。

(ｲ) 生徒の気付きを促す問いの立て方

近代化や大衆化、グローバル化など、それぞれの局面で、「『私たち』には誰が含まれるのか。」について、生徒が気付くことのできる問いを設定し、諸資料等を通じて生徒に十分に考察させることが大切である。

(4) 日本史探究「A (3) 古代の国家・社会の展望と画期」の計画例

ア　単元の目標

・原始・古代の日本と東アジアについて、諸資料から歴史に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、政治・社会や文化の特色及び変容を総合的に捉えて理解する。

・原始・古代の日本と東アジアについて、政治・社会や文化の特色及び変容を多面的・多角的に考察する力や、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などについて考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

・原始・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、政治・社会や文化の特色を理解している。	古代国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などについて根拠を示して表現している。	原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（10時間）

link⑥（年間を通した授業の「問い」）

次【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考（「おおむね満足できる」状況(B)）
【単元を貫く問い】律令制の中で「身分」はどのように規定されていったのだろうか。					
第1次【5時間】	習得	律令がなぜ、どのような過程で編纂され、その中で「身分」がどのように規定されていくのかを確認する。	知		・律令が成立した背景や過程を理解し、律令制の中で「身分」がどのように規定されたのかを理解している。
第2次【2時間】 本時	探究	律令に記載されている内容や律令に定められたルールについて確認する。また、戸籍を題材に、現代の「個人情報」に関わる問題を考察する。	思	○	・律令によって人々の「身分」がどのように規定されたのかを理解し、その意義について多面的・多角的に考察している。
第3次【3時間】	活用	律令の実際の運用方法について、政策の変化や政争などと関連付けながら、「身分」の変化等について、考察する。	態	○	・律令の規定と実際の運用方法との相違点に着目し、政策や政治状況と関連付けながら、「身分」の在り方等について根拠を示して探究している。

エ　学習指導案

link⑦（授業プリント①）

（ア）「古代の戸籍はなぜ残っているのか」（６時間目／10 時間中）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 （５分）	・「御野国戸籍」から、読み取れることについて確認する。	・戸の形態などに見られる「身分」に生徒が注目できるよう促す。
展開 (35 分)	【本時の学習課題】なぜ「御野国戸籍」は現代まで残っているのだろうか。 問い①「御野国戸籍」とは何だろうか。 問い②戸籍とはどのように作られるのだろうか。 問い③御野国戸籍は案文・正文のどちらなのだろうか。 ・「御野国戸籍」が現存する理由について、戸籍の作成過程や案文・正文の違い、「紙」「資料」としての戸籍という視点から、考察する。	・視点を「なぜ古代の戸籍が現代に残っているのか。」に移し、その理由を資料から考察する。
まとめ (10 分)	・考察を踏まえ、本時の学習課題に対する回答についてスプレッドシートにまとめる。	生徒の多様な考察を共有する。

（イ）（ア）を踏まえて現代を考える（７時間目／10 時間中）

link⑧（授業プリント②）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10 分)	・意図せずに残った木簡等の資料から、歴史が明らかになることを確認する。 ・残す情報の選択の在り方を含め、情報を残す必要性について考え、全体で共有する。	・意図せずに残った資料から歴史が明らかになる場合があることを伝える。
展開 (30 分)	【本時の学習課題】公文書を適切に管理することや国民の「知る権利」が主張される中で、何をどこまで残したらよいのだろうか。 問い④仕事に関わるラインやメールなどはなぜ保存し、残すべきなのだろうか。 ・仕事に関わる資料を読み取り、問いに対する自分の立場を決める。 ・同じ立場の人でグループを作り、異なる立場のグループと議論をする中で、どのような価値観の対立が存在しているか、論点をまとめる。	・生徒の異なる価値観について図示しながら、見解の整理を行う。
まとめ (10 分)	・様々な価値観を踏まえ、最終的な自分の意見をスプレッドシートにまとめる。	・スプレッドシートを活用し、フィードバックを行う。

オ　学習指導の進め方や学習評価の在り方

○　異なる価値観を尊重する態度の育成

議論をするに当たり、多様な見方や考え方のできる事柄を提示し、生徒の意見交換を促すことが大切であるとともに、生徒が意見を述べる際には、自分の意見の根拠を示し、他者の意見や価値観にも耳を傾け尊重するよう助言することが必要である。

(5) 世界史探究「C (2) 結びつくユーラシアと諸地域」（ヨーロッパの計画例）

ア　単元の目標

・ヨーロッパ封建社会とその展開を基に、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。

・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、中世ヨーロッパの特質とその変容を多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。

・中世ヨーロッパの特質とその変容の学習を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養う。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ヨーロッパの社会や文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	中世ヨーロッパの特質とその変容について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながらよりよい社会の実現を視野に課題を探究しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（７時間）

link⑨（年間を通した授業の「問い」）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 （「おおむね満足できる」状況(B)）
【単元を貫く問い】中世ヨーロッパはいつどのようにして形成されたのだろうか。また、その特質はどのようなものなのだろうか。					
第１次 【２時間】	活用	単元全体の問いについて仮説を立てるとともに、生成 AI を活用しながら、時代区分の概念について考察する。	思	○	・生成 AI が示す回答に潜む危険性に気付き、より適切な活用法を考え、表現している。
第２次 【２時間】	習得	中世ヨーロッパ社会の展開や封建社会について理解する。	知		・封建社会とは何かについて、成立背景を踏まえて理解している。
第３次 【３時間】	活用	中世ヨーロッパ社会の文化の特質について、11 世紀以降の農業・商業・都市の変容を踏まえて考察する。	思		・中世ヨーロッパ文化の特質について、11 世紀以降の農業・商業・都市の変容とともに、国際的要因や気候変動等を踏まえて表現している。
第４次 【１時間】	探究	ルネサンスについて、その背景や影響について考察する。	態	○	・ルネサンスとは何かについて、背景や影響を関連付けて追究している。

エ　学習指導案

(ｱ)　１時間目／７時間中　link⑩（授業のプリント）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
【単元を貫く問い】中世ヨーロッパはいつどのようにして形成されたのだろうか。また、その特質はどのようなものなのだろうか。		
導入 (10 分)	・単元を貫く問いについて、各自で生成 AI に入力し回答を得て、自分なりにまとめる。	・中世ヨーロッパの形成を事例として生成 AI を活用する。
展開 (35 分)	・生成 AI の回答と教科書の内容を比較しながら、生成 AI の回答がなぜ教科書の内容と異なるのかについて考え、グループで共有する。 ・生成 AI の回答における主語や回答から抜け落ちている視点について考え、グループで共有する。 生成 AI の回答から、生成 AI の性質や限界に気付く。	・グループワークの際は、相手の話を聞くこと、否定しないことなどルールを守るよう指示する。 ・視点については、生徒の様子を踏まえ、その都度提示する。
まとめ (５分)	・グループで共有した生成 AI の回答から抜け落ちている視点について、回答から抜け落ちている理由などをまとめる。	・生成 AI の性質や限界に気付かせる。

(ｲ)　２時間目／７時間中

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (５分)	・前回の学習の確認（前時のまとめの内容の共有） ・生成 AI の回答を鵜呑みにする状況が続くと既存の情報に含まれる偏見等が拡大する可能性があることについて、確認する。	・偏見等が拡大する理由について、生徒に理解させる。
展開 (35 分)	・資料から読み取れる情報を基に、生成 AI の回答がどの歴史観に属しているかについて考える。また、生成 AI の回答から抜け落ちている視点を補うプロンプトについて考え、グループで共有する。	・資料読解の時間を確保する。 ・プロンプトによって生成 AI の回答が変わることに気付かせる。
まとめ (10 分)	・生成 AI の回答を見ると正しいと感じて、無自覚に受け入れることが、私たちの世界観や歴史観及び時代区分等にどのような制約を与えるのかを考察する。	・時代区分は概念であり、地域や歴史観によって変化することに気付かせる。 ・生成 AI とよりよく対話するためには、各教科・科目の学びが重要であることに気付かせる。

オ　学習指導の進め方や学習評価の在り方

ポートフォリオは、学習評価の活用に加え、生徒の学びの様子を把握することができるため、単元ごとに生徒にフィードバックすることで学習改善につなげることができる。また、生徒は単元全体を見通しながら学習活動に取り組み、その結果を確認することができるため、主体的に学習に取り組む態度の育成に効果的である。さらに、生成AIを活用することで、生成AIを無自覚に受け入れやすいが、生成AIの性質や限界に生徒自身が気付くことで、答えを見直し、生徒自身が思考の変化に気付くことができる。併せて、１枚ポートフォリオに疑問点や知りたいことを記入することで、「問い」を立てる力の育成につながるとともに、疑問点について調べるよう教師が生徒にフィードバックをすることで、探究する力の育成につなげることができると考えられる。

4　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

図３は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、教師の視点と生徒の姿をまとめたものである。

例えば、主体的な学びにおけるチェック項目の「既習事項を振り返る。」や「具体物や例を提示して生徒を引きつける。」ことにより、生徒は見通しを持ち、学ぶことに興味や関心を持つようになると考えられる。

チェックリストを参考にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取組を充実させていただきたい。

	授業改善に向けた教師の視点	生徒の姿
主体的な学び	□既習事項を振り返る。 □具体物や例を提示して引きつける。 □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する。 □社会との関わりを生徒が実感できる学習にする。 □生徒が自ら本時の目標をつかむようにする。 □学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる。 □生徒が自分の考えを持つようにする。 □生徒の思考を見守る。 □生徒の思考に即した授業展開を考える。 □生徒の考えを生かしてまとめる。 □その日の学びを振り返る。 □新たな学びに目を向けさせる。	・見通しを持つようになる。 ・学ぶことに興味や関心を持つようになる。 ・自己のキャリア形成の方向性と関連付けるようになる。 ・粘り強く取り組むようになる。 ・自己の学習活動を振り返って次につなげるようになる。
対話的な学び	□思考を交流させる。 □交流を通じて思考を広げる。 □協働して問題解決する。 □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す。 □ICT や生成 AI 等を活用して、多様な意見に触れさせる。 □専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図る。	・生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めるようになる。 ・教職員との対話を通じ、自己の考えを広め深めるようになる。 ・地域の人など多様な他者との対話や ICT 等の活用を通じ、自己の考えを広め深めるようになる。 ・先哲の考え方を手掛かりに考えるようになる。
深い学び	□資質・能力を焦点化する。 （身に付けさせたい力を明確にする） □単元や各授業の目標を把握する。 □ねらいを達成した生徒の姿を具現化する。 □教材の価値を把握する。 □単元及び各時間の計画を立てる。 □目標の達成状況を評価する。 □教科等横断的な視点で、単元を組み立てる。	・社会的な見方・考え方を働かせるようになる。 ・知識を相互に関連付けてより深く理解するようになる。 ・情報を精査して考えを形成するようになる。 ・問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かうようになる。

図３　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト　（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に作成

Topic　平和に関する学習について

○　地理歴史科における平和に関する学習

戦争体験者の高齢化が進む中、その体験した記憶を確実に次の世代へ受け継ぐことは喫緊の課題である。先の大戦の記憶を風化させることなく、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくことは重要である。

地理歴史科では、社会的事象の地理的又は歴史的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察することを通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者を育成する学習活動を充実させることが求められている。

ここでは、戦争体験を次の世代へ受け継ぐ事例として、「地理総合」における平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者を育成する学習の活動の事例を紹介する。

〈「戦争被害」を題材とした「地理総合」C（2）「生活圏に調査と地域の展望」における生徒の活動事例〉

単元の指導と評価の計画（３時間）

<table>
<tr><th>次
【時間】</th><th>学びの過程</th><th>ねらい、学習活動等</th><th>重点</th><th>記録</th><th>参考資料</th></tr>
<tr><td colspan="6">【単元を貫く問い】 なぜ私たちの町「A町」は空襲を受けたのだろうか。</td></tr>
<tr><td>第１次
【１時間】</td><td>習得</td><td>【問い】
A町は空襲によりどのような被害を受けたのだろうか。
○　活動
グループ内で分担し、地域の様々な情報をインターネットや文献で収集し、空襲の被害状況を把握する。
＜予想される生徒の声＞
・北海道も太平洋戦争とは無関係ではなかったんだね。
・全道ではどれくらい空襲の被害があったのだろうか。</td><td>知</td><td></td><td>
「北海道の戦災～まちが燃えた日」より</td></tr>
<tr><td>第２次
【１時間】</td><td>活用</td><td>【問い】
北海道ではA町以外で、どのような市町村が空襲による被害を受けたのだろうか。
○　活動
被害状況について理由も含めて予想した上で、統計や諸資料から、どのような市町村が空襲を受けているのかを分析する。
＜予想される生徒の声＞
・海沿いの大きな市町村が狙われているのがわかった。
・内陸では、A町の被害が大きい。</td><td>思</td><td></td><td>https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/feg/236668.html
北海道保健福祉部ホームページ「北海道の戦災～まちが燃えた日」20～22ページ参照</td></tr>
<tr><td>第３次
【１時間】</td><td>探究</td><td>【問い】
なぜA町は空襲を受けたのだろうか。
○　活動
巡検、歴史民俗館の見学や戦争体験者の講話などを通し、当時のA町の様子を踏まえ、A町が空襲を受けた理由を考察する。また、戦争が身近にあったことを気付かせる。
＜予想される生徒の声＞
・A町には軍事施設（軍馬補充部）があったから、空襲の被害が大きかったのではないだろうか。</td><td>主</td><td></td><td>
「軍馬慰霊碑」</td></tr>
<tr><td colspan="6">【新たな問い】このことを私たちはどのように語り継いでいけばいいのだろうか。</td></tr>
</table>